

## <金標準、日米の金融政策変更の年で円安の恩恵が消える・・・>



(出所：オアシス)

日銀が公表した12月の金融政策決定会合の「主な意見」で利上げを急がない姿勢が示されたが、植田日銀総裁はNHKのインタビューで政策転換のタイミングについて、「中小企業の賃金データが完全に出ていなくても「ある程度前もっての判断」は可能だ」との考えを示し、2024年3月の春闘で賃上げが確認されればマイナス金利の解除も可能と示唆している。特にFRBの利下げ予想では年3回の0.75%を示唆しているが、市場は1.5%の年6回の利下げを織り込み済である。特にCFTCが発表するドルインデックスの建玉明細では12日17601枚のドルのネットロングが19日には3942枚と大幅に減少するなど、為替市場ではドル高・円安からドル安・円高へ移行する気配を見せている。

特に金標準先物は、円安の恩恵を受けて世界の通貨建てで一番の上昇を行なって来たが、2024年は日米の金融政策の変更の年だけに高値を追い続ける事は難しく見え、9500円以上は戻り売り基調を強める可能性は高まると思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが切り下げながら、シグナルは切り上げている。RCIでも短期が下げながら、長期は切り上げている。特に日足が10日移動平均線を下回るなど、再度9200円へ向けた下値追いの値動きに注意と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,500,000 円(2024 年 1 月 4 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 79,200 円(2024 年 1 月 4 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>